

令和8年度 事務事業評価シート（1）

〔 令和7年度事務事業 〕

一般会計					事務事業分類	A 一般事務事業	
事務事業名	展示事業				事業番号	008-063	
担当部署名	文化観光局	局	歴史遺産活用部	部	学芸課	課	

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本 計画2025	施策 との 関連	有・無	戦略	1.堺の特色ある歴史文化 ～Legacy～		施策	(3)類稀な堺の歴史文化資源を活かした戦略的な観光誘客の推進		
			有	取組の方向性	①堺の歴史文化資源を活用した滞在、消費拡大促進					
		寄与 する KPI	有・無	指標名	大仙公園エリアへの来訪者数					
			有	現状値	29.4万人(2019年度)		目標値	60.0万人(2025年度)		
	堺市SDGs 未来都市計 画 2021-2025	施策 との 関連	有・無	ゴール	ゴール(8)働きがいも経済成長も		ターゲット	8.9		
			有	取組	茶の湯や地域の祭り、文化財などの歴史文化の保全・魅力発信					
		寄与 する KPI	有・無	指標名	—					
			無	現状値	—		目標値	—		

2	関連計画	—		
3	事業開始年度	昭和 55 年度	点検対象年度（堺市基本計画2030）	令和 12 年度
4	実施根拠	博物館法・文化財保護法		

事業の概要

5	事業の実施主体	堺市博物館					
6	事業の対象	市民及び本市への来訪者				対象数	単位
						—	—
7	事業の目的	堺の通史を示す常設展示や多様なテーマによる企画展・スポット展示等を通して、市民及び来訪者に堺市の歴史・文化を紹介することで、都市魅力の創出を図る。また、魅力的な企画展等を開催することで堺への集客促進や来館者増に寄与することを目的とする。					
8	事業内容	堺市博物館及びさかい利晶の杜では、多くの来訪者を堺市に呼び込むことを目的として以下の事業を実施した。（①～③は堺市博物館。④・⑤はさかい利晶の杜） ①企画展「堺の技と美」（5月20日～7月13日） ②企画展「堺のたからもん」（7月19日～9月7日） ③特別展「堺の竹工芸家たち」（9月20日～11月3日）【主催：文化課】 ④企画展「堺に生きた山崎豊子のまなざし」（4月19日～5月29日） ⑤企画展「パリより」（7月26日～9月7日） あわせて展覧会に付随する学芸講座やワークショップなどの関連イベントを実施。					
	※国・府の基準より上回って実施した内容	—					
9	主な支出先	委託業務の受注者					
10	公民連携・協働事業	—					

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標	単位		実績		目標	目標
				令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和12年度
	堺市博物館の満足度	%	目標値	90	90	90	90
			実績値	90	91		
			達成率	100%	101%		
	当該指標を選定した理由	特別展・企画展や常設展示の質的な成果を測るため、来館者の満足度を成果指標とする。満足度の測定は、堺市博物館来館者へのアンケートの実施による。（令和6年度に新たに目標値を設定）					
	目標値の設定根拠・算出方法	前年度の堺市博物館来館者アンケート（常設展示および企画展・特別展の満足度）より算出した水準					
12	活動指標	単位		実績		目標	
				令和6年度	令和7年度	令和8年度	
	特別展・企画展等の開催回数 （さかい利晶の杜開催分を除く）	回	目標値	5	2	5	
			実績値	5	2		
			達成率	100%	100%		
	当該指標を選定した理由	観覧者の増加を図るためには、魅力ある特別展・企画展等の開催が必須のため。（さかい利晶の杜を除くのは、当該施設が大仙公園エリアの来訪者数に関係しないため。）					
	目標値の設定根拠・算出方法	年度当初の事業計画（展覧会等の開催計画）に沿った特別展・企画展等の開催回数					

令和8年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	展示事業	事業番号	008-063
-------	------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。（単位：千円）

	項 目	令和5年度	令和6年度	令和7年度		令和8年度
		決算	決算	当初予算	決算	当初予算
13	事業費（a）	21,769	14,781	17,209	20,791	24,921
	財 国支出金	5,864	731	0	0	0
	源 府支出金	0	0	0	0	0
	内 市債	0	0	0	0	0
	記 その他（基金繰入金、物品売払収入）	1,779	4,434	8,430	6,626	7,400
	受益者負担金(使用料、手数料等)	3,644	2,900	3,500	7,998	3,600
	一般財源	10,482	6,716	5,279	6,167	13,921
14	人件費（b）	36,590	36,170	38,740	38,740	40,800
15	年間経費（c）=(a)+(b)	58,359	50,951	55,949	59,531	65,721

事業費の内訳

（単位：千円）

	項 目	年度		事業費	うち 一般財源	項 目	年度		事業費	うち 一般財源
		R7	決算				R7	決算		
16	謝礼金	R7	決算	1,134	534	展覧会運搬展示業務	R7	決算	1,430	283
		R8	予算	776	776		R8	予算	4,400	3,100
	旅費	R7	決算	967	706	広報資料製作業務	R7	決算	1,018	1,018
		R8	予算	620	620		R8	予算	1,100	1,100
	需用費	R7	決算	908	908	図録製作業務	R7	決算	2,673	0
		R8	予算	770	770		R8	予算	3,400	0
	役務費	R7	決算	349	349	各業務委託料	R7	決算	8,464	2,278
		R8	予算	550	550		R8	予算	2,600	2,600
	会場設営業務	R7	決算	3,757	0	その他（使用料及び賃借料、備品 購入等）	R7	決算	91	91
		R8	予算	5,800	3,500		R8	予算	4,905	905

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

		区 分	単位	令和6年度	令和7年度
17	①	年間の観覧者数（堺市博物館＋さかい利晶の杜）	人	123,054	131,490
	②	上記①にかかる年間経費	千円	50,951	59,528
	③	単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位	414	453
算出についての説明等		観覧者数は2館の展示観覧者数。			

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18	年間の観覧者数は増加した一方で、茶室を活用した事業の実施や企画展パネルの多言語化、新規映像コンテンツの作成等により、年間経費が増加したことから、観覧者1人当たり経費は微増となった。観覧者数の増加については、万博来訪者を意識した企画展テーマの設定や、従来実施していなかった展示場と茶室とのタイアップ企画の実施が主な要因であり、令和6年度と比較して約34,000人（堺市博物館：約14,000人※休館まで、さかい利晶の杜：約20,000人）の増加が見られた。また、観覧者1人当たり経費の増加については、堺市博物館の休館期間中に、新規コンテンツの作成や展示内容の更新などの取組を前倒しで実施したことによる影響が大きい。これらは一時的に経費を押し上げる要因となっているものの、今後も継続的に活用することにより、令和8年度以降の観覧者数の増加やサービス向上に寄与し、結果として費用対効果の改善につながるが見込まれる。
----	---

KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）

19	万博の来訪者を意識した企画展テーマの設定や、従来実施していなかった展示場と茶室とのタイアップ企画を実施したことなどにより、令和6年度と比較して堺市博物館の観覧者数が約14,000人増加し、来館者アンケートでは91%が展示が良いとの回答があり満足度が高いことをうかがえる結果を得ることができた。引き続き魅力あるコンテンツを活用した企画展を実施し、積極的なプロモーションを行うことで堺の歴史・文化に興味を持つ入館者及び世界遺産エリアへの来訪者の増加をめざす。
----	---

令和3年度からの実績等を踏まえた事業の必要性・有効性に係る所見（前年度の事務事業評価で点検対象年度を令和7年度とした事業のみ記載）

20	必要性	■ 高い □ 低い	令和3年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響により観覧者数は一時的に減少したものの、展示内容の充実や関連イベントの実施により来館需要の回復傾向が見られ、高い満足度を維持していることから、市民・来訪者双方からの一定のニーズが確認できる。加えて、本事業は堺市基本計画2030の「類いまれな歴史文化資源の継承と観光地としての魅力の向上」にも整合しており、本市の歴史文化資源を活用した取組推進の観点からも有効性は高いと評価できる。
	有効性	■ 高い □ 低い	